今西行吾妻旅路

へ遠13
1820

門へ遠13
號1820
巻

振鷺亭主人著

勸化さいもん

今西行吾妻旅略

松恩軒梓

今西行吾妻下序

戯作者いよゝ見世みせ如く、何ぐも欲でもえてむくが稚ねをど、九軍の御守いあ者くゝ見ほと目ゞ運るとゝ事有ゝ憶病見でりゝい見とゝわゝ一日書肆来くさいもん曲のおと出ゝとゝと稚とゝく一作

あつまつてとの注文より任せ、どうげと勧化
本を編出し、筆を採り、版本のあとがき
変を書きとゝび、終を見る者目が運るとか
かさのほを、書肆ユレく先生、山本を
見ると同がほぶをる序うゝ出くるを
誰もえほもれいあるまいといふ予笑く
ハテそこが趣向といふもけだしかるゝ大尾
まぐおつるわがゝずと先浮遊今西行
吾妻下さぐほをくく

昔

文化士申夏五月望題于
武陽大師河原鹽濱閑居

作者——振鷺亭主人

第一信田乃森

第二紀三井寺

第三高野山

第四泥川越

第五芳野山

今ぬけまいり
きうめと
うたんけ

こりゃ
どうぞ
へぬけの
てみが
よ
こぎ
とい
ひと

第六阿部の文珠

今ぬけまいりの
まろうじゃいと
うたんけ

「てらぶーきや
ねてるあさ
ゐはいて
まんとものみな
ちくちく
きまと
いろくい
さるまろの

「おとはいんぐん
てんの
ちくちく
ハテちくーき
いせまいり
どうか

第七奈良の大仏

今ぬけまいり
うたんけ

ぼう
ろくもまけるぞ
ちいとをつつく
ぬつけるを
ふとさとまる
てつるもの

第八初瀬の観音

今ぬけまいり
えびの
うたんけ

「ぢうぢがえと
かちかち
とうくと
うん
そい
どで
うんを

「ちうの
あやさ

「いの
まい
あやさ

「かみの
あやさ

ぶあめ
えんぶつ

明治四十一年五月二十日
市島館長 氏寄贈

順祭文勧化暇乞西行吾妻旅路上

振鷺亭主人 戯編

発端

南無阿弥陀仏。

南無阿弥陀仏。

南無阿弥陀仏。

うさぎやりんの上ゐ。今雷行と変ん〜地名とち
よたん坊〜そいえん水どろ乃ろ〜そ肩。あづま西りと
きえひ〜方ぢる年ゐ〜に角とそ小家とちのふ〜
ゐり。立〜女房のえ丸名ん方の掘よもゐびてぬ今ふうさ
よ世とをてぐさ乃。風雅ぐもゐ〜酒屋でもゐ。おうと色
のデモ坊ゐ。大坂の最所〜。ぐもゐ坊〜ゐ〜ひそびぐ
ん人の位とゐり。衣乃ゐ加とゐ。ぐ加とのひとさとぐ加とのゐぐ
ゐ〜〜。今ゐ乃ぐ古まてぐゐ。ぐ乃ぐ色ゐむの三月ゐんだ。

よしの
芳野の美とも一見し。大和巡行参宮と志し。紀州と
あくよ天とち懐筋くゐちゐ立ゐ乃ゐ〜ん〜ぐ〜ゐ〜ぐ
ゐ〜ゐとゐて色ゐ〜ぐ。ぐ〜〜ゐ〜ゐ形ゐ〜ゐ〜ぐ〜ゐ〜ぐ
ア〜ゐ〜ゐ。三ゐ〜ゐ〜ゐ〜

えのこつ西それこそ西やろうざこやろうとやア。拔
とらぎやアねぇぷちらつぷちらとらはでやんとアとごれい
ちぐびんさん伝田のお稲荷さん（ぶぎまいうんを少とやにく
いぐでナハ丁のまろうざ。東南とそんせちアさ西そんぎん
さんかんぬん伝田のあんをいとどぶにてらざさんせいをア西
いきぜんをおめぐでアはア。職人ぐざの西そふさおや方とかぎり
のちんころぐつまぐ西ぐうきさのよ長町の人宿よかうてた
ぐぷまぐ西ぐうぷぷ（ひいちア西とぶにておもぐぐろ

あんぎうのうるおぎやアねぇやぷぺ一泥アでかちぐぐいが伝田の
恋をおぐぐいるおひつきざ西若ぐきぐおりろそふざ
うぐうたいぐのさ西井り少ぐぐろ狐のえおぎア西そんる
にいるうの西イヤおるのうえんの西イヤべさいちゃんへーてさふかうア。
うろうとあるくと産てかる狐とふんぎげちアア西ぐてえん
ぎうぐ西ぐ西ぐ西出てかぐうう西イヤ出ておるとも。ぐうどいま
ぐろゆぐと化仕度の分おぎまひにうつぐかうおぎぐぷぷ
びとるぎぐうまぐ西ぐてお同ようけちアア西そふるみがるく

いけべいごうそとつくゼうそでれぐぢのうれきる
とうそゆニく チキチ ユシケキチとのぐまやアれぐうこいづあアさ
そうとうそうぐぐまづくしそうせそうんれいいけ
ぞうさもれくうぐチト二百だろ ぢみきせんがかるて
のんぐ 百ぐ二百うくうんてい ぢりしく ト百ぐうぐぐて二百 ぐ
ぎーそぶ 家かいぐう 公るふんそひろい のんぐ
むさけにあるねるものしそとうそ ぢちまく せんぐうき 西 ぐ
とうこ 和 こしぐ 狐 きつね そひづうまくうこ
ぢまる 健 けん さそ その 仕方 しかた まぐ
ぢまれ ぐうこ のうこにぐつさうきうこ ぢて ぢる の 蕎 そば ぢ 蕎 そば のうれ

うくまねそうこぐーぐそぐ ぐてことそつてゐるそ 狐 きつね ぐうこつけ
ぐこいろうそ 屋 やぐぐ 化 ばけ ーくうんとうこるのさぐうく
ぐうぐきうくそとくそ いくそぐうさ ぐしさうちぐひねくと 家 いえ を
ぢる ーて 狐 きつね ぐそぐまぐそうる 西 にし ぐつとひつそうまくあ
ト ぐこぐつあア おうーいく ト ぐうきぐそ 西 にし ぐうくうそぐ 伝 つた 面 めん の
ぐりぐんぐ ぐうそぐ ぐうそのき あぐの中 なか ぐうれいりゐる 一 ひと ぐうくうそぐ 伝 つた 面 めん の
表 おもて ぐれ ぐれ ホ ほ ぐ子 こ ぐ 娘 むすめ の 横 よこ ぐ ぐ ぐ 子 こ ぐ 和 わ 蕎 そば の 赤 あか ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ て
ぐうぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

よんごろしの爺ごろしでござぃちろうとて縁のむを
だしまをそう問ふてのいろぴきもぜてわれぜヨト
おづろよしぴくわそこの麦畑を芋をかろてがらだあ
ぎつごナニわるもやアわんの人るざア そこゞモウ、おわ人
がゞアだろさんのご眉へ嘆をおころをそうとつて義の字
ろうそつとうてわるぴたをよせて見せらアトゾ(二人へやぶの
かーこんやき芋おかアまだをとぎこそ狐のかへざまれせんとまるーわける
ぼんぜであいつこうれそしぼくのどとさきロとむぐーてえせろまし
見しぴかあつくきやりげんをしてまづこそさの芋ぴーこおやちこだろく
まろうきりぼしでちやべアちしとしろぐーとだろりーし

而 ハハハハハハハハハハハハハハ
ごてんれさまごちそうさうゐ。サテくけつこうゐおどーきまこ
天井のさるとゞ天まもしべぱやりのおの松の絵ついきてる松
のようでイヤどうへませぬ附よ夜るふけまをしだらべ
立ちるさ立を付ふつもナやねごんごてござりまをてトト
ひろうまーぬとろろくいやーがふへんきるつまかれつきとるゆだあ
いこんしそうてこうゐんでよきちびひふまつれだろさんあうとおりひと
きてる而 イヤこんしくくてのゐさゐぱづへ作きげんよく。
くづのこうゐうぐちゐんどイヨいつもおうつくしうござり

まもなくサテ〳〵今日へちよろ〳〵とよりぷつこうるふ伝くさいけど
酒とぷらふくいてきイヤこれいあぶ〳〵げよをべつてぷい
ぶてうわうとやぷぺ〳〵ぷんでぷおみやとぞんぜます
しぶこれい茶ちでぐざりますト云るのそそよ
この〳〵でもわげすをあでぐざりまもとぷ怪りうぐう
お考代ナニせべいふをおつまやるヨホ〳〵ぷふぞおまけ
てぐさらもうもうパイあアぐぷありまれみんぎよ
ふでおまもよろ〳〵テンテレツクテレツクツントひうしぶうれてぐあるぐん

ぐんをたいうをれとのいねだかりのあうさいぶれるとうおりんひよくげいぐ
んるふぷまのくそれい日るかけぐぷの二百いちよちかいをぎ〳〵ひつ
くるそのるとわ
ぐつをひつとてくま「ヤレいけぐてるさあ」トよぶれべてこのあく
うかけうんさ
いぶ〳〵「ヒヤアいあいまーいけぐあ狐ぐぷつぷぐあるうえろく
トあうひんまうるぷけぐあてそそんぐさいぷんぎうびさもうとうりあげ
らもどぎさいふもうもうしあり。あうぐ〳〵けるかりとあうあさけ〳〵れ。
二月〳〵て〳〵ぶさ〳〵
さまぐ〳〵ぷ〳〵「ドレく流うてぐつくえうふ二万人二万
トうきのくそうてぐらもぐぷぐあいおうい中うるーいう中うげこい
人ちうてまうもう三百とうふとーこそ分のあやまりよぐまげきうさう
ぐあうけ「あやまうて稲ぷうさ多さうけてうこ「えうひ
くこいたあアかきさ人ぷるのなぐあぐ二百うへせく

人間ニハ、いけどりにしてぶんとらいひとけとそ、ぶ
ざぶらんれいぶ畜生さ、そんそうこんとぶらいとう
帰そふるものぶ、そうれいぶ、王子の狐ハ狐ざう
家ぶつをくるんでもたつぶでもえせ、ぶ二ぶ生そう
ぶそしてそけまやハやだろくぶ、そつぶぶうさうあ二十
匹ぶ、ぶ、ぶ、

とらァ「エイ〳〵そしぶりやうぢ〳〵ぼうとつしていまるやぐまづ
乃平通がる代狐ハ三度ぐ阪とろくよ。そこそこんるまだあ
狐ごろ〳〵ぼうぬけりこ〳〵おやんごぐんこ〳〵まんべんの
せうこまぐこてやうぬくけつこやァうぬくたまるごぢち
かいぐこいけぐろく〳〵ぼうこそこうぐんこいうぐんこいうこ
ぐぼうこぐぬくぐ二百ぐうにるぬくりんでもぬくぐぼんまう
れけいぜ「ハテねぎんるさんるぐぼ〳〵にんぶ三百をハやをい
りんぐ「ぐぼいるんぐをおりりく〳〵二百やにまるぐいく

べらぐうこぐあめこ〳〵くいまやァぐれ「リラいるりこるにる
のこるぐ〳〵ぎつるく〳〵ト邑二百のぜるとふこころのれく
るけ「ぐれぐあるるとあんぜく〳〵おぐこそく
ぜ「こ〳〵くうこと〳〵ぐつておれと〳〵こいてこァ「こるく〳〵
亀ハきいこぐこるく〳〵狐ハこれぐこぐめくぐぼくこまるく〳〵
のこるぐ同りるあるこ「こそこうこひるんるぐこるぐ〳〵ぎつる
れ切位でこいるぐ中むひぐおやんがこァにァりんぐこよ
せいのれくこきくぐうこぐぼくふこるれくぐ長のの乃平かけく。
よつぐこうこるロァいうれくぐこそふうのぐんぐう知恵乃

わくらでかつたの屋乃うへのぎつぽうをふらぬ
[illegible]

くいさくびさしてえんよ孤うる
へのぎろりりれるのくをりち
とひとそそ京ちれまだりに二百りけを
さも勧化のうちをぬ御の丹川ちりてろ。鎗茶かう
吸物ぞこーく良源とり蛾通明神へ参れある
出羽ときひびる麻の白んとろふたとわく紀州浦

わたきこひくてりよやどろぬ明れべ山年と続く。船田
栗沢へまりぞんとも[illegible]れべ変にんちきに根あべ
アまぞ。稲ぶさどんへぶ雪へでいる。ぞ清の行よ清
でぬぞとれ和尚の出羽。[illegible]ぞをおりろきる麻
の浦浪行男波乃公彩ひ。ぞべふちく変待通用ろ
ゆきまるり。さて和尚の浦とこて。紀三井ちにのべ。
門前の姫礼宿よ海りるに。御膳のひきろが白屋
ぞろ出湯桶の汁ハんのぬるみをけり

こに丹波の者とく男女月ゆ十人をまつあつせゴれれうめのあ手ひ
ゆてきまりにつけべそのホの紀まるのゆ出ふいとをそるゆ人ゆ千一人
ホゆまりのそんきよご表とをまりあげ「ゆるさとをとまりぐこそ出きを
ゆぞ〜ゆ出そ〜ゆ出ゆ〜ゆみにつのくれ〜ルべをまぐゆとをおき
ゆるホくぐ「モノ方ゆ」ゆおゆまぐゆるゆ〜ゆあってゆあゆと
ゆとゆまゆ「モノ方ゆ」ゆおゆまぐゆるゆ〜ゆあってゆあゆと
ゆ。ゆ〜ゆ〜ゆ彩川ゆるのゆ手紀まゆゆでゆ九きれゆお守を頂
いてきゆ〜ゆぶゆ九ゆのゆるッゆアゆあゆるをあけてゆゆるを開ゆア
ゆつにぶれるゆのゆゆんゆゆ。ゆ体でゆんゆゆりゆをゆゆ「ゆゆく
ゆゆのゆゆゆ。ゆゆゆゆゆゆゆあけゆゆゆるゆゆゆんゆぶん
あけゆゆ開ゆゆゆゆゆゆゆ

あまだそうと宮やのとりこみ、ふるようとみ
のおんまりうりとてうやくしくらふのまに
うりやくしたし、脇ダ、ぎつるとしてありしく、そうがしとそうくたりとよ
いれおきー、とぴだらくさうちくべてまんを慶面きざろぬれてぬぐひ出
かれとくくしたびと「サテ仕たきまと公方香ハ抹香ぞ」
むせふきづひと「サテ仕たきまと公方香ハ抹香ぞ」
るやどるる匂ひくちぐひ、一ぐびくこをかぐのぴりくこをる
ちくしぐひるく。まづ宮初をうとてぐらんにいれまをる
ぶ。拝ふの本門三号の門ふ陀七色こうぐしのやこよ
のつぴけこのうちにおぐまをまをぴ目をまつぴく
いとおれとうげられまをちうぴぐんくけふりのうつよ

まうぐくあぐさいとぐるんへるくぴるんでも目をさ
ぐめくぐぴふぐくとおぐまれぬおぐまれぬと孫せぐ和い
トめぴぴうぐしのぐくとめるぐ一ぐまらぐとぐつくつく
目をあくうとるるぐぐさそこめくるまつくるるけやりれむせび。
目くくあるぐぐぐりくぴりくのどいぐくつぴくるてぐが
らくくめくくまりうみてビルくスウくくうきらぐせべ
「リリヤア一すむうりあけうけくくぐ今ぐがるまりうん
じんめんありがくくるぐんくるぐくぴれぐりの
ようくるるくくぴうむきやらくんのうとうぐし。
とらやあやぐ。ちやくくむちやくちやぐぴちやくちや

ごア「ア」おつことてくべくよるぷあんごろかんごろ服玉ア加つる
けくるようでちやくくちやくくちやごアとちやあヤヤ。
ちであくくやおごまちごとようれまよべべどやアわくく
「ライノ」後生のとまいこんごろアニ、おごまちごとやあよ
さつくやろ月べいおつたぶれるとろ鼻ちごらひん
りげるようふろり嘔育アとうちちあくれるようでむさごう
くつてまようそふごアよいのちごあつてのおごねごあ。
アニうちんで後生もへちまもあるべいとうやめるさう

くくそふごくぷあんでちこアやあ稀をけをつきめう
でてとつるふちひごあぷぶくごろさんちアあろうくく
トこそかなてさちさぶぶくぶやんてゝ家であるとんてゝおねこくのねごこと
ちんんあくぶの世ろのへびたアまるとのころくくかるごとうがくく
ぶぶくよあつそぶうちおつこちだあ
ごありそろへひつくる「キヤ」アア天升ろう陳ねろおつくちち
てキくくぶごろびよひつくてぶ
くくやくをひろ
さごうまちろて「ヤ」こアとやアとんごんごんごあぷやくくやごう
けく陳殺ごあ「ア」ニとてくてまごろ四ごごふつくんべべべん
るとろ乱ごア「ヤ」みるんせくくぷちろごあ活とあア

高野山女人堂之図

よつんふぐされんくらふよみんるとてまくさろちんく
「そりあ」ぜあハあ。あるとおてくらんぐあ。ぜ年に。みるがいき
てわのちぐもでわ。ゆかのあ。ぐあ。百まんべんのうさろる
べいへぐうさんわんどう　とうてろうせい「チツト」まろう
ちゆうろうまへびぐあぐぶり「ヤレ」ろうまへひぐんぐぶり
「アろうまろ」ぐあ。ぐ。ぐ。
トせあねんぶりのころに宿の女房
目をさまし。おんどうとうくく
かくかくとひきあり。ミルがいろまへびとろまろ。だれんぶりの「おめ」
ろうさろうきぐもとうぐ。てあるのりよひろうかろう「まめ」
ぐうあろんぐんぐろる夜中蛇とうまへてあきしきろうん

ぐイヤさくやろうまぐちぐろうとそろふぐ　トろうんときぐろうきろんぐ
「おやろうろうばあ　トろうろうまげる。びとそろんぐさいろんぐさいろんぐ
ろうろうまへのぐうてびひろうぐびぐ　まんされ。目をまき。ていきてろんぐろうぐまちぐろ
ろうろうきのぐくせんぐんし「ノヨ」蛇ぐ。蛇ぐ。蛇ぐ。

蛇なんらんぐくちうようるる月よあつく。蛇業ふこん
ごるぞむらてやらろまや中ほ「アニそれれ」てもュフ
のくくてまくまぐやア古森ゆ少やアまゆくい。サテく殊勝の
まやらとだてくア。ぐまれてきたアりんぐア。ある世山
でいてでいくきぐ古仏とふりかけるぐよんべい。ア方
さん「刺」ろれぐ古神くくやきぐれといふのぐまう
蛇のうまごろくとくこぐあるかくチトまぐるくく
ようう。九重の護ア の原といてでうせくくませうく

トみるのうえゆまうようとりがしまうとこらてへびのませるれぐいきを
りくきつこんとまくまんしぐうぐしまうのきつけくべうくくまくとを出て
かまぐびとりまあげるぐ抜ゆまゆくうかけるぐ世のちゆくとうかけるぐまやき
でつるへびぐしやくくとまうやくくとのくうゆ。ぐ度へまんひぐ。やぶのゆく
まうけるぐくあうまるぐだいくうだいへのまうまるる。ア面
がぐうまぐくれまうくくあくだいくうだいへのまうまるる。ア面
へびぐアくくうんくうんくやまゆくうぐ古仏のおうげく。
干あくまうくまる蛇ぐうまるたまうくぐ九重の護ア の一ぐとのまよ
せくくぐいきかるくくとぐ。服前のふくぎいあくくれれれ。
おうんぐぐア。あけるくくりぐふるくとのまお寺とうくさぐう
くまんぐうくぐんぐ月くまあくくアぐくくおくくおくとおれく

でぞいぶんもんぐ〜とまろるせんぽうのわやまがくを
とゝとろう　トいふろまろく太そろうぞうこ
みぐ〜衣の袖ろ〜月ぐこんろうて

陳ろぎまろ行ぐのこゝろ

ウポッポラ　ウポッポラ
一世あるとき大きいぐつぐろうとこしさんるどこんもろうこんけのくちろ今りこひと
ぐまんいけ〜しく世ろくくるおぐどろ〜来ぐのあさめ〜出来て世べへ大き
ろ出くらうとめ〜ごろうよひるめ〜と　おめんぐこん阪出二安安ぶ世っ
つろくくるれるこび世めっとろまんぎ
いを安出阪安ぶ世向中て別しけっかて異ろみの涙で
よいろうてこるおぐつさ〜ん。宮ぐで住ろこ不浮涙乃指
小ぶ。ろむさんとそれてろくきろうとぐうてかへ

そふいくとゝや三里半きさんべエイハちろこぐれくとぐおと
ざ〜ろ中ろ〜。太力ろ〜ねべ根ぶろふぐ〜ぬおさあまろ
こぎとろろ〜ぐざてタへ大きろちやべつてろへ口かろ
ろる世くまつるろろ。ぐ世ろ小べ長ろ虎ろろろ
みナ八丁のぐろてて世ろ祈ぐろろ賽ぶ
いあげるとろ〜ぐ。祈ぐろろ世。今時ぶぎ〜ん
ふぐろぐどひれろ祈ろ。ぐ一文い〜ぐどきき
ろとおぶひゃ。又八十丁あまりよちのぐるた。

弘法大師の母さんは四国べいふ女人
けつこいのふるれべとてつこぐ子ゑあるれぬとりくら
おしやとくぐ笑つよつくこはさくりふがねぢ見おく
あげ笑とて今ゑとばりれ手ぐぶおそろゑつあ
と笑拍一めくちぐちろるれるゑぐアくくと笑ゑぐ。
ち上そ大門よいちりぐ大婚今笑ゑくりすくおぐこつ。
奥の座くまりるよ大師入宝の手墓所。まと江殊勝の
吳地ちくぐさそぐれひうひやくあと西玉の濱宝

のどくぐ今ちひへ宿坊よやどりぐあくれべ出山ちるよ。
殊教座町れえ芝れへいづれちかと申しき紀元どき
あてあきるひときるゑりぐこれい女房がちりゑり
ちぐぐさもあるくぐ代玉裏門口ゑれべるりべ女人芝れて
女門者どもライくと西
ういくゑるれ人「おやくくちやアぐゑりぐくそぐんる
れるくのぐ「ゑるぐ「ゑるぐふサぐらちアをまりめで満山あ
こんてせちくくおみるまるり中たぐこれちくくさきぐサア。女ア
めいくれぬといのこんぐくぐぐとくく女といゑりのぐ紫酡乃

ふけいりんごとおもやぁ。きちがいんしてかんぺーくおざーぁ
よ一つあるわど。八十八丁四十八曲とふ伊と利へ雑わと。
そうちらおつちらくそうのぐつく。えかくさきふけう
こうる平地でありかてふあざよ。えーぐんぬとふふさで
のこりおわからへぐ。あさこうめてやるがい。女ぐ奥ろ
ぢへめいると。徳姫の拷ぐ右とたおろてかけ出とう。
蛇柳ぐ右と出してうーはあ。イヤモおそろしいそよ。そんざ
うーう女とうへりるぁ。業の見えいのよ。ろるいとしおぐへ

ぐあるうーう。懺悔とそうぐいそへきるとこんざの出ふへ。
男れむまれてうるうぐくいふようこうまりくぐいこうちぁ
れへ。あさつてあこうり。おぐきさこうる男れうーぁヨヤそへ
ちゃーこうりへこうこうハテる拙のあさつてこいふこさ
一そこうやあハぁありがてへこんざさんげをおりふこう。
おんらぁれとけーこうでこんざよあういぢめこういこ。
レニサがをきでぐんぐいどんの名りのうぬそこだいこと
ぶつこうこさぐつうりさ。あよこうれいるいこんざこう

ゑゝおざ〜れ〜ぶちくとんべいぬぎとゝんどうぐある
ぶんのことさ。今ねぐけ替め蓑でさつまいもの〜ら
ぴゝ〜と一ぷんぴんぬきんでた九の〜ゝよ中〜かとつて。
喉サゝさつかけて魚たとぶちあげ中〜さぶかぐちやゝ
さどらでもおざ〜ふゝ〜よめといちあこゝろのでいめ
とまつだゝ〜ぶ〜ぶおまりとくもゝ〜ぜそ〜とさつ
まいものへつぴとぬきむゝいしやゝかぐちやの
きつぴゝ〜ゑどぶぶざんぬきとゝぐ〜ひとゝ〜ちうぐ

ヲイ〜そのかぐちやぐゝとぐれ〜これでおざゝゝよゝ
ゑゝ〜ゝさぢんぢいざんの蓋がおつこちるどそんま紙よ
おつぢくんでぴつぐまつゝ〜おいてどんぐぢおゝ〜紙
べいとおちつゝぐぢつゝこゝとりつてきてあけてゝちゝ。
バアチャかぐちやのゝねとがラまちぢいてもつて来ヤこよ。
こゝもも白滑ぐゝ出りやアおんゑでこんぐゝといつてぢを
の男ぐもぐ宿坊さ多へもつていきまゝ〜ぐぶひとつぐぢん
ぢへぐんぐかぐちやよゝむまれゝちゝとまらうとぢおりつゝく

京ぐ〻まておざるァよ「イヤこゝぷァらへんにおるい。
そのうひとちよいけるこ墓ゆよかゞらやゞうく。
宿坊のおゞよるうゝぬゝやァその切位でごんゞの
ゆゆやァとうがんよむまとて来らァそのゆへ為い
物とみまてこととゐんてのいく。うんでも光明真言
とゝゐんるゞいく。此東甫塞。黄色拏曩馬鹿無他
夛阿豆多呼吐那喰多羅腹張多耶呼「つぎにゆるまあ
くありがてい。おらもひやんげとまよべいとゝどまあ

あよもうまいことうまくさ見へおざるねくげていとう
屋よおつちいてだやゝうつきゆ男ゆ人もかせゞ手り
ておざるァそのおとことだゞよるめさよまとひつけ
ゐむこであるらさ附みらッそのゐ地蔵のあと
まんまいゞゝとおつゆてんゝゝァが地蔵ひやまゞまる
べいとうぷおれゞあゝまを火たてきよまんやあがゝと。
どゞりゝうゝくそのゆ晩けふゝりゝもおゝりとひつ
ぷるうてァがゝくをべいとゝとぶちまけゝくみんるらゞ

べつてんぐ〜ぷくぷくぷんちゃくぐあ。村中よりてそん
中〜やつと御寺〜どんよくびとうもちろく。おらわさん
出されさぶぷんにしてもおらよりのむねきのとりなみ
地蔵ひやまぐあ。地蔵の新もこ度といよりぷんぐこ一
ぺんちやつぴていとかつぷうるとつくぷぐちけ
ちろ〜さつ〜やることあおぐ〜わ〜ぐふ宮といつく
つきとしてこ〜ぷがラ ホウクリ ひやるぐおつかけとあ。ひやる
かけ地蔵のさぐめぐぐぷ〜〜やこぐおひやぐちゃあ

つけるとつて。指枝とひやるの穴（けつぷんぐ。おつこさ
まとしさつくぐちゃるんぐあう〜あがひやるだしらあ
おつろけ〜ぐぷねくよひやるてさにるりゆーさつがく〜
ア ハ ハ ひやるとのかんねんときけぺぴやるとぐいろ
てふ〜ちせんぐん。ちちやぐ〜鼻人服とくつ〜長
者よるるめふきいてぐぶ。鼻人ようしをけうとへぴや
るでも鼻〜ぐとつち〜ねくとうあぐ。地蔵のあと
まとぐ決てきるとをつるふぐけとうぷんぐぐう

つるでぢぞうさまゞ後持てまゐ
まゐらう。サアく次のあるさんハどふ
さんげこのゝさんけごのとゝ
さちのとつさまナアでけいかん
とこゝまゐるゝて。まゝげんとおつぢ
てまでかこまとガラぶつこ
ふやゝげゝけんまもつん出さ
さんごうこつくゝる地人味噌を

さアそれゝ行使ごうゝ。あんてもこんごあいまさう
とおもつて来ア。さぶ荒蒔紀子地蔵さまでき中
たゝ。堂る坊のいまれるあ。その内ん若坊ハとつ
くまちんごとゝ中をそれときくとアニガハアちゝ
ふおつこちゆこごあんまゝ
くおごりやを山おぢちうとこごゆこえ
さうりいまつとうごおたうさんのいまゝやる
みそまうぢうこいつくもゆゝアきのふとつこも

今のんぴげさとてさも今のんぴ。おとていをてさも今のん。
いていていてくもおんなじこてこてどれくいきてるらどんう
うらるてくやろう（ト）万年茅と地蔵のコレく大師のお墓ぬ
ぐこぎこくれ万年茅おどひきのようよるてこうこう。
おやぢやアこれこよちけいれおきこうるるぐい（トゆんべ客が）
ふくきこきこり「おやつるる拐小末そん」親かこじやり
てきとぬつと出き「アント」ぐうさる。けれ末戸うう角とちとん
てゆけアハ〜〜
へいのでいてるちやぷるるかんへいう「ぢぷぷるとう

おるるここ三人ぐ搭のかこちとくむぐ女ら搭よたくく
ふぐう三ぐうのつこぐふういぐけ搭とくむとつみぐきえ
るとよる世のつの発金文のうつこうとうふへひことこと
「アニどうとれべ搭よるりゃ」「ようぷどちるる」業
るかるけぐよぷこうれあぐれく義ぐうけるる
「アニこのぷ」ぷうんだうらんでき年ふこくふぐう
れへうう搭よくんでおうるせくくらうせい（トゆぐ）ふうを
ひねつくぐひよこのこくふこのこのこうれ「サ」アぐこの
のここのこのこうふぐこのとうんきここあげくく

さんおとごぼくこのさんてがつくぞろく腰をのこく。
ぐつくこんくこんること奥の座まで入こんこんこんアルく
はまれるぐ腰をいくのるアえんじめてあまさア。
やれこれ猫ぐのヒベいこんぐぞうんここさあアくあん
まりいぐんぐこん屋ぐこきこく立りまぐぞんこんこん
ぐこさおろいてくまこんこんころイヤまできるこをいア。
そんぐこちけいりんぐ入こんくれくまだあこんそこでこれ
さつしまるこかこアこつぐいみぐんぐこアよイヤそこで

されよこんこんいここまぐ入こんこんこちやア。うんよ
るつく最るかるうんべいぐ。おくくこちやアまこをこん
てへくつぐこれるこんぐぞちる屁ぐ出らおよこん
ていわんぐぞるぐ山ブウ ズウスウ どうざいくこて
お国ぐこつこよかこんれ組こてまくくこぐまこるこん格ろ
かこちぞこてこうるこんうぐしまよんどぐいこ屋どくこうおる
まんぞうこん屋根のかこちぞうくこるおんどーまぐ格ちれ
はちつこちまこるこんぐる世のこんぐこう英女ろいつこう。

此義を心づけく女人どうでござりまをと。さるおび
ゝく言いれでおるぐさをぞ。彼とき〻を去へうの直ぶん
乃ごどくぞ〜ひざをてぬ〻ぞろしたをあたござり
まをと肌ぞ。おぬまぐちいぐちたござりまをゝうが。
とゝく。おねんぶつれおこへぶかんどんいよく去夫。
ぶるくぶぐちよさ〜かゝらせをを
ぱこいひおう〜チリシテ チンシテチン チンテンワン テテンテン ゝといサテあれ
この男ぶり
こいるア。扨さてさてゝく。おぬまのろけまをを程をざ

いアこ〜とひざをぶ。がワクリ ソワクリ。そつく是がつゝりぴゝろつゝ。
ぶるつゝぴゝろくゝぶるくゝ。イヤぶるくぶちく。
テンカラく トひゝゝしおのせ〜ルぞあこ〜とのゝを立かアしぶらちつゝ
そぞつゝろおこをあかゝとこゝをゝたひつゝりゝ
是があいひゝろ
さくつんのゝる
ゝやゝく。をあおゝ〜つくをこいぶむをゝぶづらアぶつたけぶぶちつ
とゝもいゝゝろあねゝぶをゝろつぴゝ。ゝやげもゝをいゝ附いありがゝ
ワ アハ〜ニ ゝありぶをいゝとぶおゝ〜つゝをゝぶぐぶをゝぶをぶ
ゝをゝをゝアよヲホ ヲホ〜ニ ゝアニありがをゝんぐゝぶゝゝけぶをを

つるまるはつくぐいけむりくしいおちあぷとーふさろあねんぐ
おーひぱらくあんでもけぐうぐあぷおらくさちをあそぶ
きぐで味噌をとうをぬとさうんぐあぷいーあげいーるつまぐつ
くやるべいふぐをめいよ　とむーやぐりつ少ぬこれにいたきよ
てこどりまあぐおりとたるまとをとりて
西
まつぴらぐあんくーあのこうぷうまりこすまりぐちぷ
ぐちんまこうくもぷみのかるひぐこといふあぐぷんにん
まつこくーまとんぐーあぜあーぐをつるぐみをまり
ぐうまぐこいつくぷあぜまりこすまをこうんぐぐいさーまら

とりくえんせりのふーてぺつぴりかぷよーこぷあまりそぐちぐう
きどゆぷくをぐりこちーくやるべいトニ人ちくかりこぐきまん
西
ちりる人ちーこ西
やをつきを色ーこぐいまのまりくーひぐこをりくくるを
ようりつくぐをいつをんうよんびぐそぐりしへ秋ぐーぐんぐで
ぐうぐんぷいんつきをようちつりかりうりをうんぐようり
おさるも幼化のくちうりくひをうりぐおりくく紙や宿のおりしぐこれちりりくるむ
ぐーよりくくちりをぐうち川ぐいとりて十三屋がありぐ人のあるをうりくーこさろ
ぐりれりくまをこのうんぐーようりぐ西めおりきこをいきりまりくめうをーむ
ちをぐーこぷくちりをこをりてうんんとまりまりのあ立所でかろ
てきこひをりくんのねつひーおりまりちりをを実て入通さ人あれを西人
あきをこひをりこをーいをうこをこみやく